

令和6年度 磐田市立長野小学校 学校評価書

A:90%以上、B:70～89%、C:50～69%、D:49%以下

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察○・改善策※	学校関係者評価委員から
やさしい子	◎時と場に応じた行動ができる子 ○自分や相手の気持ちを考えて行動することができる。 ○出会った人とあいさつをすることができる。	あいさつや返事ができる	B	○「心のアンケート」や「人間関係づくりプログラム」を定期的実施することで、一人一人の児童の悩みを把握し、よりよい学校・学級生活のための働き掛けを行うことができました。 ○きらきらタイム(帰りの会)で、友達のやさしいところを紹介する場を設定した。自分や友達のよさが確認できたことで、学級内の人間関係づくりにより影響を与えた。 ○学校生活の中で集団やグループ、ペア活動など自分の思いを表現する場を多く設定するようにしてきたことで、自分や相手の思いを大切にすることが育ってきている。 ※生活委員会を中心に昇降口でのあいさつ運動を継続している。正門や昇降口など決められた場では挨拶ができる。しかし、そのほかの場面では受け身になってしまう児童が多いため、「先取あいさつ」を目指して声掛けをしている。これからも自分から進んで挨拶ができる児童が増えていくための取り組みを続けていきたい。	・子供たちが落ち着いておどやかに学校生活をしていると感じる。学校が楽しいと感じている子が多く、すばらしいと思う。 ・挨拶がよくなってきている。地域の方にも協力してもらえるように働きかけを続けていきたい。 ・「きらきらタイム」はすばらしい取り組みである。自分や友達を大切にし、レジリエンスの力を高めたい。
		自分や相手の思いを大切に行動することができる	A		
		出会った人と挨拶することができる	B		
		学級は、互いにルールを守り、協力する雰囲気がある	A		
かながえる子	◎進んで学び合う子 ○自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりして、共に学ぶことができる。 ○学校でも家庭でも進んで読書をするすることができる。	授業の内容が分かっている	B	○少人数での意見交流に慣れてきて、多様な考えに触れたり、友達の考えに刺激を受けたりしている。 ※決められた宿題が終わると、それ以上に自主的な学習をしないと思われる。「みなみが野学府の学習の手引き」を使って、児童・保護者ともに家庭学習の時間や内容について意識できるようにしたい。「宿題」と「家庭学習」の違いや「自主学習」の意義を伝えることで、自主的な学習について意識を高めていきたい。また家庭学習(自主学習)の時間については、個人差があるので、学年の発達段階に応じた時間が確保できるよう保護者への働き掛けを行っていく。 ○改めて教師に聞いたり、自主的に調べたりは少ないが、友達に聞く姿は見られる。また時間を設定することで自分で調べることができる。 ※課題の提示方法を工夫したり、自力解決の時間を確保したりすることで、児童が課題を自分事としてとらえ、教師に限らず課題を解決しようとする意欲を高める。 ○図書室の貸出し状況を見ると、高学年は2学期に各種行事があり読書量が減ったととらえられる。保護者の値が低いことから家庭での読書量が多くないことが見て取れる。家庭と連携をとりながら、児童の読書の習慣化につなげたい。	・授業はどのクラスも落ち着いて取り組めていてすばらしい。 ・子供たちがお互いを認め合っているからこそ、情報交換をしたり、練り合ったりして、学習を深めていける。 ・学習は、ノートや教科書を使うだけでなく、生活や遊びの中にも広げていけると、興味が深まるかもしれない。
		決められた時間以上、家庭学習をしている	D		
		進んで先生に聞いたり、自分で調べたりしている	C		
		自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりして、共に学ぶことができる	B		
		学校でも家庭でも進んで読書をするすることができる	C		
たくましい子	◎心と体をみがく子 ○自分の立てた安全・運動・健康の目標に向かって努力できる ○身のまわりの整理整頓ができる。	屋内や屋外で、毎日体を動かしている	B	○昼休みに外で友達と遊んだり運動したりする姿が増えてきた。やかたタイムを利用し、学級遊びとして運動を取り入れているクラスもあり、身体を動かす習慣につながっているように思う。 ※外遊びのおける女子の割合(特に高学年)が減っているように感じる。学級遊びを企画したり、教師と一緒に外に出たりなど児童が外に出る機会を増やしていきたい。 ○運動会などの体育的な行事や命を守る訓練に向けて、多くの児童が自分の目標をもち、練習に取り組んだり、訓練を実施したりすることができた。 ※「整理整頓」の項目において、保護者の評価がとても低いことから、学校で身に付けた整理整頓の習慣が家庭生活には生かされていないことが分かった。よりよい習慣化に向け、家庭と連携を図っていきたい。 ※新型コロナウイルス感染症は5類となり、生活の中での手洗いうがい、消毒の習慣が少し薄れてきている。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどがまだまだ流行しているため、引き続き声掛けを行っていくが、評価項目として必要か検討していくようにしたい。	・子供の遊んでいる姿や声は、見ていて気持ちがいい。地域ではあまり見られないところもあり残念だが、学校では昼休みに多くの子供が元気よく遊んでいる姿を見ることができうれしい。 ・整理整頓は、子供が小さかったとき、我が家でも課題だった。時間を区切ったり、気持ちを切り替えたり、その子に合った片づけ方を工夫したりと、いろいろな方法を試したことを思い出した。
		自分の立てた安全・運動・健康の目標に向かって努力することができる	B		
		身の回りの整理整頓ができる	C		
		自分から手洗いうがいができる	B		
家庭・地域との連携	・地域を理解し、親しみをもたせるとともに、豊かな感性を育てるための龍門館教育の継承を図る。 ・本校の教育活動について理解してもらうための広報活動を充実させる。	龍門館教育の伝統や地域を生かした特色ある教育活動を進めている	A	○コミュニティスクールコーディネーターの働き掛けにより、総合的な学習の時間を中心に、多くの学習ボランティアの協力を得ることができた。読み聞かせや登下校指導など、保護者や地域の方の協力に支えられて充実した教育活動ができています。 ※龍門館から続く長野小学校の歴史や緑十字機の史話、千寿の舞、仿僧川の治水など、今後も地域教材と関わる学びの場を生かし、児童の意欲が高まるような指導を継続していく。また、ホームページや学校だよりなどを効果的に活用し、情報発信を続けていきたい。	・学習で地域の方とつながっていることはとても大切なことである。 ・いろいろな方に協力していただけるように努力したい。
		めざす子どもの姿や、取り組んでいる教育内容などについて知っている	B		
		保護者・地域の方に学校の様子などの情報公開を行っている	A		
		地域の人たちと、学校や地域で関わっている	B		

学校関係者評価を受けてのまとめ

長野小の子供たちは、地域の方々から温かく見守られ、大切に育てられている。毎年、コミュニティ・スクールコーディネーターが学校と地域の多くの人材とをつなぐ役割を担ってくださっているおかげで、学習ボランティアやゲストティーチャーをお願いしたり、登下校指導のボランティアを募ったりして、安心で安全で充実した活動を送ることができる体制を整えることができています。来年度も、龍門館から続く長野小学校の歴史や緑十字機の史話、千寿の舞、仿僧川の治水など、地域教材と関わる学びの場を生かし、児童の意欲が高まるような学習を継続していく。また、龍門ステージやビブリオバトル、やかたタイムの活用などを通して子供の主体性も伸ばしていければと思う。加えて、今年度課題があがった点を中心に子供たちのよりよい活動を模索していきたい。家庭学習の在り方や家庭読書の推進、地域への発信など、家庭や地域との連携を深めながら、より良い教育活動につなげていきたい。